

【学生】震災意識調査アンケート

創価学会 東北学生部

調査の背景

・2011年3月11日に発生した「東日本大震災」により、壊滅的な被害を受けた東北地方。本調査は、そこに暮らす学生が、未曾有の震災に直面し、今何を思い、どう立ち上がろうとしているのか——「災後」の日本の進むべきビジョンを考察する一助とすることを目的に実施した。

・対面式でアンケートを実施し、自由記述項目を多くし、択一式では読み取れない、学生の「生の声」を吸い上げるように努めた。

INDEX

▪ 調査背景.....	2
▪ 調査概要.....	4
▪ 調査学校一覧	5
▪ 回答者出身地一覧	6
▪ アンケート用紙.....	7
▪ アンケートの進め方.....	8
▪ (1) 大学とコミュニティー	10
▪ (2) 社会	16
▪ (3) 個人	21
▪ (4) 未来.....	24

調査概要

- ◆調査手法:対面式
- ◆調査期間:2011年7月1日～8月21日
- ◆調査対象条件:東北地方に暮らす大学生、専門学校生
- ◆調査設計／調査地域:
 - アンケート配布数:700
 - アンケート回収数:511
 - (※次項に記す東北地区にある大学、専門学校47校で実施)
- ◆調査主体:創価学会 東北学生部

調査学校一覧 合計47学校

【宮城】

東北大学、宮城大学、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学、仙台大学、東北生活文化大学、東北文化学園大学、石巻専修大学、宮城学院女子大学、仙台接骨医療専門学校、花壇自動車大学校、仙台医療秘書福祉専門学校、石巻赤十字看護専門学校、東北職業能力開発大学校、白石高等技術専門学校、東北文化学園専門学校、東日本医療専門学校、仙台リハビリテーション専門学校

【青森】

青森大学、弘前大学、青森中央学院大学、八戸工業大学

【岩手】

岩手大学、盛岡大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、花巻看護専門学校、盛岡公務員法律専門学校、盛岡市医療福祉専門学校、北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ専門学校

【秋田】

秋田大学、国際教養大学、秋田県立大学、ノースアジア大学

【山形】

山形大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、県立保健医療大学、鶴岡高等専門学校

【福島】

福島大学、福島県立医科大学、日本大学工学部、東日本国際大学、いわき明星大学、県立テクノアカデミー

回答者出身地一覽(合計30都道府県)

【東北】

青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県

【東北以外】

北海道、新潟、長野、富山、石川、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、静岡、愛知、大阪、兵庫、滋賀、奈良、三重、広島、島根、愛媛、高知、沖縄

アンケート質問用紙

〈学生〉震災意識調査アンケート

創価学会 東北学生部

1000年に1度と言われる大震災に遇い、壊滅的な被害を受けた東北地方。そこに暮らす学生が今、何を思い、これからどう立ち上がろうとしているのか。皆さんの率直な声をお寄せ下さい。

はじめに

- ✓ 年齢・性別 _____ 歳 男性/女性
✓ 学校・学部（専攻）・学年 _____
✓ 出身地（市町村まで） _____
✓ 現住所（市町村まで） _____

〈大学とコミュニティー〉

- Q1) 震災直後はどこへ避難しましたか？ _____
Q2) 信頼できるコミュニティー（共同体）の条件は何ですか？ _____
Q3) 上記で挙げた条件に大学（専門学校）は、あてはまりますか？
また、その理由を教えてください。 Yes / No

- Q4) 今回の未曾有の震災に対して、今後、大学（専門学校）はどのような役割を發揮することができますか？

〈社会〉

- Q1) 今回の震災が発生し、不安に感じている点は何ですか？（最大4つまで）
● _____ ● _____ ● _____ ● _____
Q2) 震災に対する政治の働きについてお伺いします。政治はその役割を十分に果たすことができたと感じますか？ また、その理由を教えてください。
Yes / No

- Q3) 政治のあるべき姿について、あなたの考えを教えてください

- Q4) 震災前後で変化した将来の職業に対する考え方（＝何のために働くのか）を3つまで教えてください。
また、その中で最も重要視する考え方に☑をつけてください。

- 〈震災前〉 _____ _____ _____
〈震災後〉 _____ _____ _____

〈個人〉

- Q1) 被災地の復興のために、小さな事でも行動を起こしましたか？ Yes / No
Q2-1) Q1で「Yes」と答えた方にお伺いします。どんな行動をされましたか。具体的に教えてください（最大3つまで）。また、そのなかで感じたことを自由に記入してください。

● _____ ● _____ ● _____

- Q2-2) Q1で「No」と答えた方にお伺いします。次のうち、最も当てはまる理由に☑を入れて下さい。
 実際に行動しようと思ったが、手続の方法が分からなかった
 自分一人が行っても何も変わらないと思ったから
 何も考えなかった

- Q3) 今回の震災では、被災地とボランティアの間で情報のミスマッチが課題となりました。これを解消するためにはどうすればいいでしょうか？

〈未来〉

- Q1) 未曾有の大震災の中にあっても、見出した希望はありますか？
また、それは何ですか？

- Q2) 震災前後で最も大きく変化したあなたの考え方、価値観は何ですか？

- Q3) 今回の震災を経験し、学んだ教訓は何ですか？

- Q4) 今後、どのような社会を築いていきたいですか？

ご協力、大変に有り難うございました。今後、ご回答いただいた内容につきましては、集計・分析した結果をプレスリリース等を通じて発信してまいります。本調査は、それ以外の目的には一切使用・転用致しません。

アンケートの進め方①

- ◆ 今回のアンケートでは、「大学とコミュニティー」「社会」「個人」「未来」という4つのカテゴリーを設けた。
- ◆ 自由記述の項目については、各設問において、回答された内容を複数人で議論した後、類似するものをカテゴライズし、大別。回答内容の上位のものをここでは取り上げた。
- ◆ 各設問の総括を、各設問ごとの分析結果のなかで紹介するようにした。

アンケートの進め方②

◆さらに、今回のアンケート分析では、所属するステータスを基準に、バックボーンの違いから見られる違いを示した。

一、被災地に暮らす学生とそれ以外の学生

→今現在、被災3県(岩手、宮城、福島。以下、同じ考え方)で学ぶ学生と、それ以外の3県(秋田、青森、山形)に学ぶ学生との間の差異について見る

二、被災地出身とそれ以外の学生

→被災3県出身と他県(東北残り3県含む)間の差異について見る

三、低学年と高学年の違い

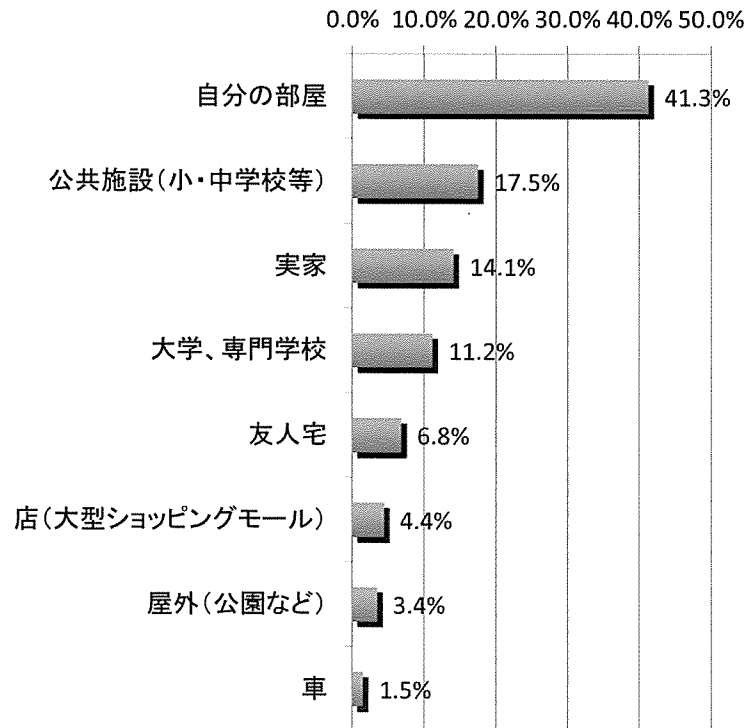
→低学年は原則大学学部1、2年。高学年は、大学学部3年生以上(大学院含む)。なお、2年生の専門学校については、1年生を低学年に、2年生を高学年とする。

四、文系学部学生と理系学部学生との違いについて(専門学校も専攻する科目の違いにより文系、理系にわけ)

(1)大学とコミュニティ Q1

- 震災直後に避難した場所としては、「自分の部屋」が41%と最多。また、被災地外に学ぶ学生と比較すると、被災地の学生の多くが、「公共施設」に避難したことが窺い知れる。

震災直後に避難した場所

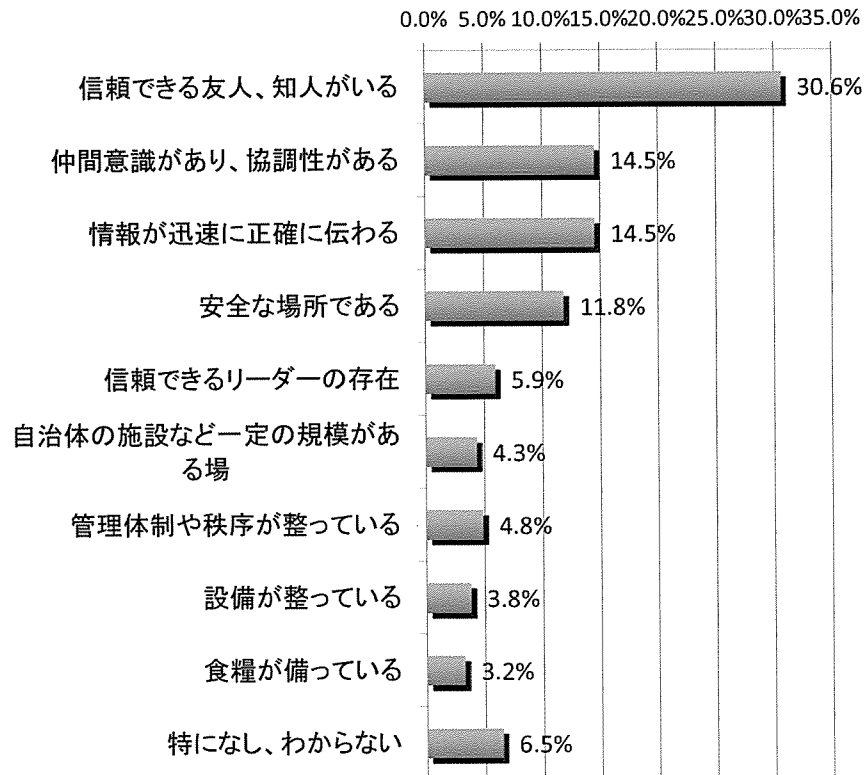


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
自分の部屋	41.3%	31.5%	44.6%	36.4%	34.8%	36.1%	34.9%	24.6%	40.0%
公共施設(小・中学校等)	17.5%	17.6%	9.5%	20.6%	10.6%	16.5%	13.2%	15.9%	14.7%
実家	14.1%	13.9%	8.1%	4.7%	18.2%	10.5%	14.2%	10.1%	12.9%
大学、専門学校	11.2%	9.1%	10.8%	11.2%	8.3%	9.0%	10.4%	13.0%	8.2%
友人宅	6.8%	4.8%	8.1%	5.6%	6.1%	4.5%	7.5%	5.8%	5.9%
店(大型ショッピングモール)	4.4%	3.6%	4.1%	4.7%	3.0%	3.0%	4.7%	4.3%	3.5%
屋外(公園など)	3.4%	3.6%	1.4%	5.6%	0.8%	2.3%	3.8%	2.9%	2.9%
車	1.5%	1.2%	1.4%	1.9%	0.8%	1.5%	0.9%	1.4%	1.2%

(1) 大学とコミュニティ Q2

- 信頼できるコミュニティの条件としては、「信頼できる友人、知人がいる」ことが最多で、身近な人物の存在を大切にしていることがうかがえる。さらに、被災地学生のなかには、自身の体験から「協調性」を挙げた割合が高かった。

信頼できるコミュニティの条件

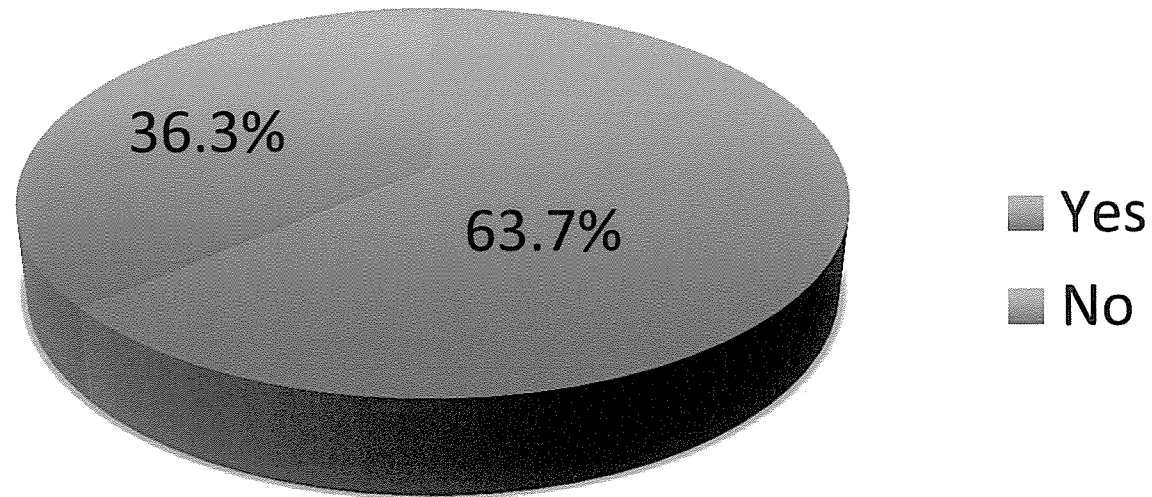


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
信頼できる友人、知人がいる	30.6%	27.8%	42.4%	38.6%	27.5%	32.6%	32.9%	36.2%	31.0%
仲間意識があり、協調性がある	14.5%	21.7%	3.4%	9.6%	20.9%	11.2%	20.0%	12.1%	17.2%
情報が迅速に正確に伝わる	14.5%	18.3%	10.2%	19.3%	12.1%	13.5%	17.6%	22.4%	12.1%
安全な場所である	11.8%	10.4%	16.9%	13.3%	12.1%	14.6%	10.6%	10.3%	13.8%
信頼できるリーダーの存在	5.9%	8.7%	1.7%	4.8%	7.7%	6.7%	5.9%	5.2%	6.9%
自治体の施設など一定の規模がある場	4.3%	4.3%	5.1%	2.4%	6.6%	7.9%	1.2%	1.7%	6.0%
管理体制や秩序が整っている	4.8%	3.5%	8.5%	6.0%	4.4%	5.6%	4.7%	8.6%	3.4%
設備が整っている	3.8%	2.6%	6.8%	2.4%	5.5%	4.5%	3.5%	1.7%	5.2%
食糧が備っている	3.2%	2.6%	5.1%	3.6%	3.3%	3.4%	3.5%	1.7%	4.3%

(1)大学とコミュニティ Q3

- 6割を超える学生が、大学は「信頼できる」と答えた。

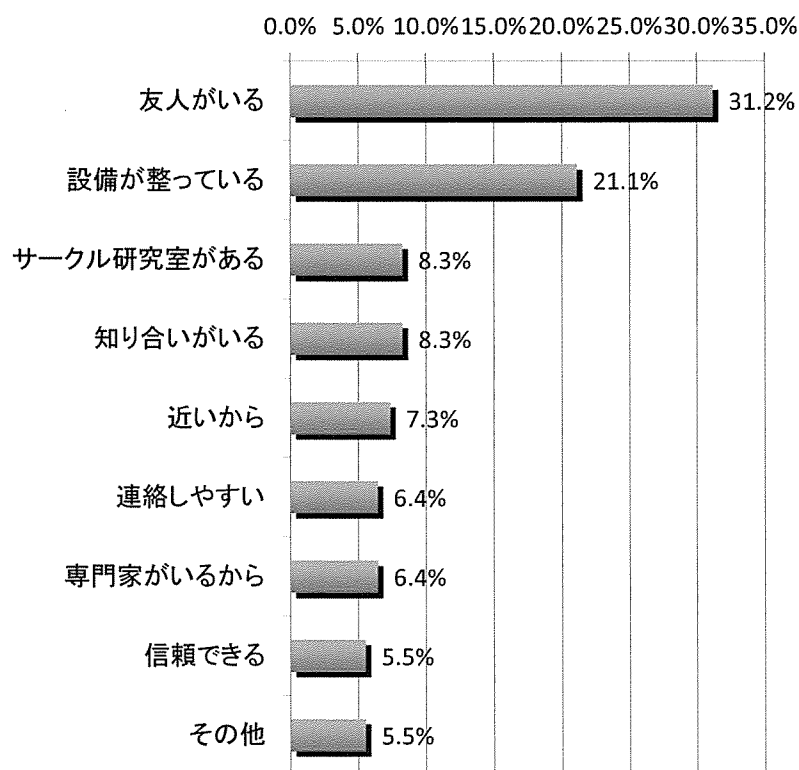
大学(専門学校)は、「信頼できる共同体」の条件
にあてはまりますか？



(1)大学とコミュニティ Q3

- 「信頼できる」理由としては、「友人がいる」が一位。設備が整っていることも、その理由として多かった。

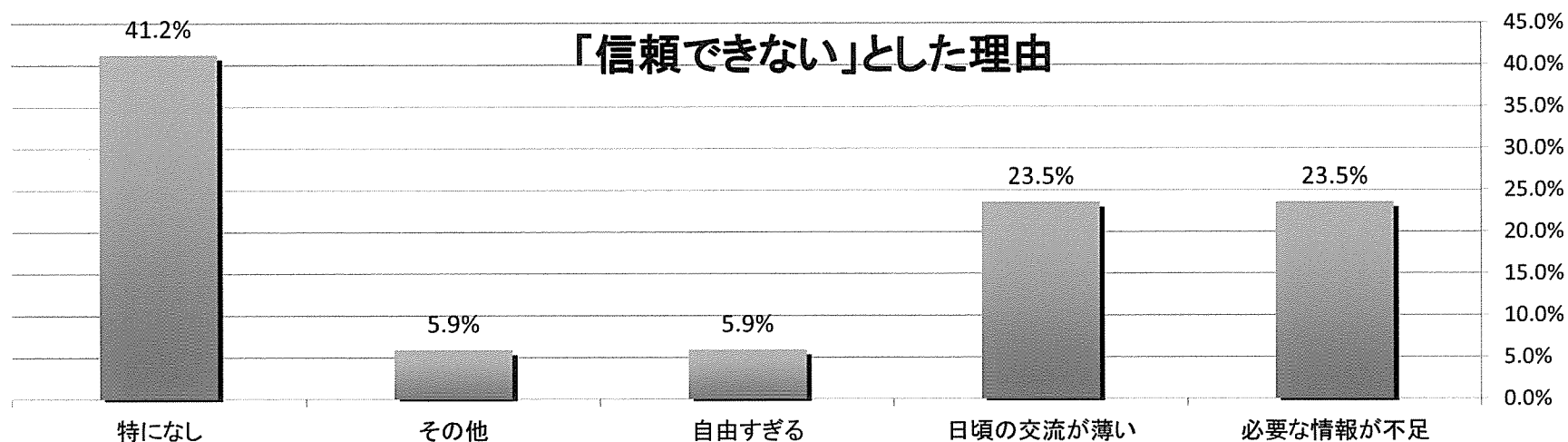
大学(専門学校)を「信頼できる 共同体」とした理由



項目名	全体	被災地 学生	被災地 外学生	被災地 出身	被災地 外出身	低学年	高学年	文系	理系
友人がいる	31.2%	26.4%	40.5%	30.6%	31.7%	35.7%	26.4%	29.7%	31.9%
設備が整っている	21.1%	23.6%	16.2%	18.4%	23.3%	16.1%	26.4%	18.9%	22.2%
サークル研究室がある	8.3%	5.6%	13.5%	8.2%	8.3%	8.9%	7.5%	8.1%	8.3%
知り合いがいる	8.3%	9.7%	5.4%	8.2%	8.3%	7.1%	9.4%	13.5%	5.6%
近いから	7.3%	4.2%	13.5%	8.2%	6.7%	7.1%	7.5%	10.8%	5.6%
連絡しやすい	6.4%	8.3%	2.7%	12.2%	1.7%	5.4%	7.5%	5.4%	6.9%
専門家がいるから	6.4%	8.3%	2.7%	4.1%	8.3%	7.1%	5.7%	2.7%	8.3%
信頼できる	5.5%	6.9%	2.7%	2.0%	8.3%	7.1%	3.8%	2.7%	6.9%
その他	5.5%	6.9%	2.7%	8.2%	3.3%	5.4%	5.7%	8.1%	4.2%

(1)大学とコミュニティ Q3

・逆に「信頼できない」理由としては、「必要な情報が不足」が最多。
「日頃の交流が薄い」とした理由も多かった。

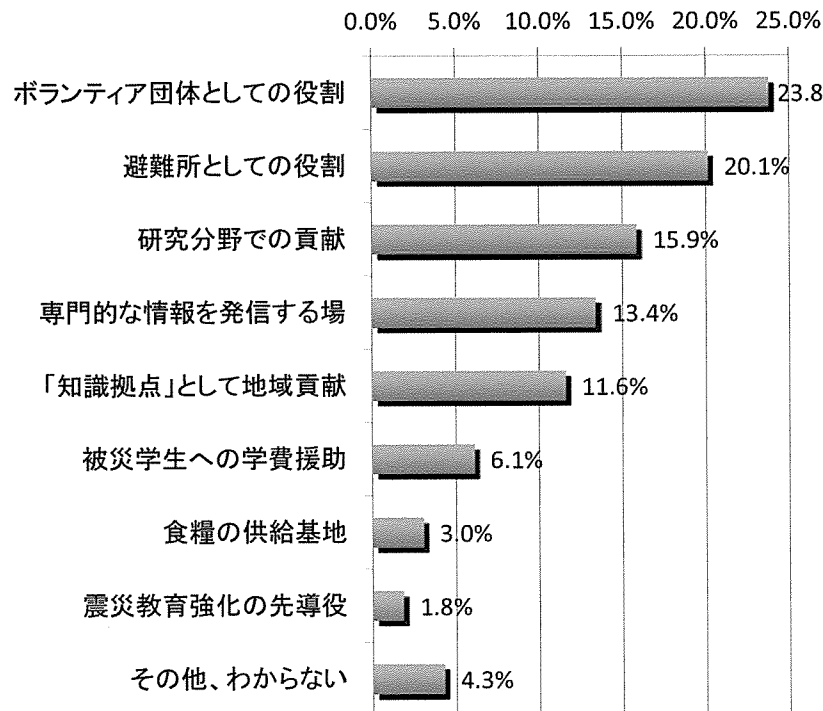


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
必要な情報が不足	23.5%	26.4%	40.5%	30.6%	31.7%	35.7%	26.4%	29.7%	31.9%
日頃の交流が薄い	23.5%	23.6%	16.2%	18.4%	23.3%	16.1%	26.4%	18.9%	22.2%
自由すぎる	5.9%	5.6%	13.5%	8.2%	8.3%	8.9%	7.5%	8.1%	8.3%
その他	5.9%	9.7%	5.4%	8.2%	8.3%	7.1%	9.4%	13.5%	5.6%
特になし	41.2%	4.2%	13.5%	8.2%	6.7%	7.1%	7.5%	10.8%	5.6%

(1)大学とコミュニティ Q4

- 復興へ向けた大学の役割としては、「ボランティア団体としての役割」が最多。なかでも「被災地外学生」の4割がその理由をあげた。「被災地学生」「被災地出身」の学生が、一方の学生と比較すると、「被災学生への学費援助」を多くあげた。

今後、大学(専門学校)は、復興へ向け、どのような役割を發揮すべきか

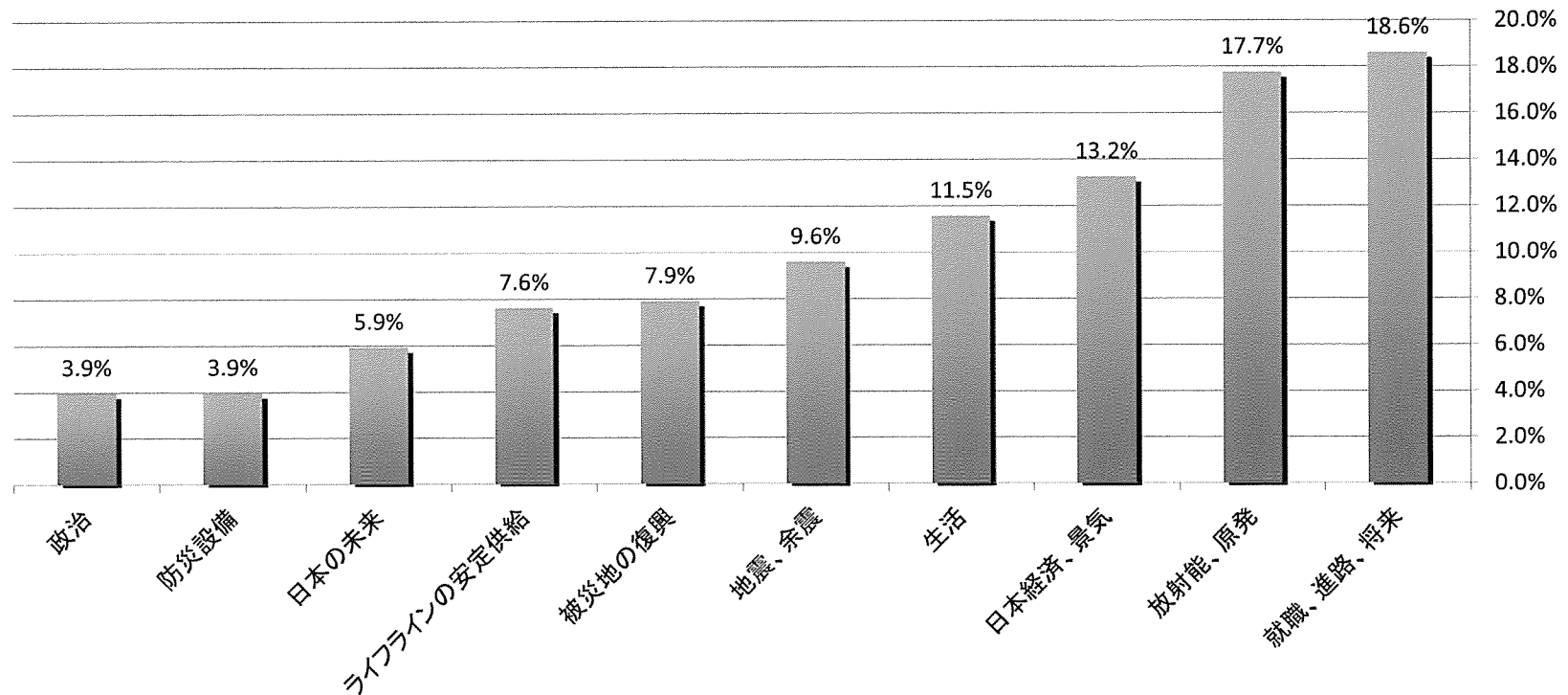


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
ボランティア団体としての役割	23.8%	26.4%	40.5%	30.6%	31.7%	35.7%	26.4%	29.7%	31.9%
避難所としての役割	20.1%	23.6%	16.2%	18.4%	23.3%	16.1%	26.4%	18.9%	22.2%
研究分野での貢献	15.9%	5.6%	13.5%	8.2%	8.3%	8.9%	7.5%	8.1%	8.3%
専門的な情報を発信する場	13.4%	9.7%	5.4%	8.2%	8.3%	7.1%	9.4%	13.5%	5.6%
「知識拠点」として地域貢献	11.6%	4.2%	13.5%	8.2%	6.7%	7.1%	7.5%	10.8%	5.6%
被災学生への学費援助	6.1%	8.3%	2.7%	12.2%	1.7%	5.4%	7.5%	5.4%	6.9%
食糧の供給基地	3.0%	8.3%	2.7%	4.1%	8.3%	7.1%	5.7%	2.7%	8.3%
震災教育強化の先導役	1.8%	6.9%	2.7%	2.0%	8.3%	7.1%	3.8%	2.7%	6.9%
その他、わからない	4.3%	6.9%	2.7%	8.2%	3.3%	5.4%	5.7%	8.1%	4.2%

(2)社会 Q1

- 震災で不安に感じることとしては、「進路・就職」と学生ならではの理由が最多。ついで、「原発」「日本経済・景気」となった。

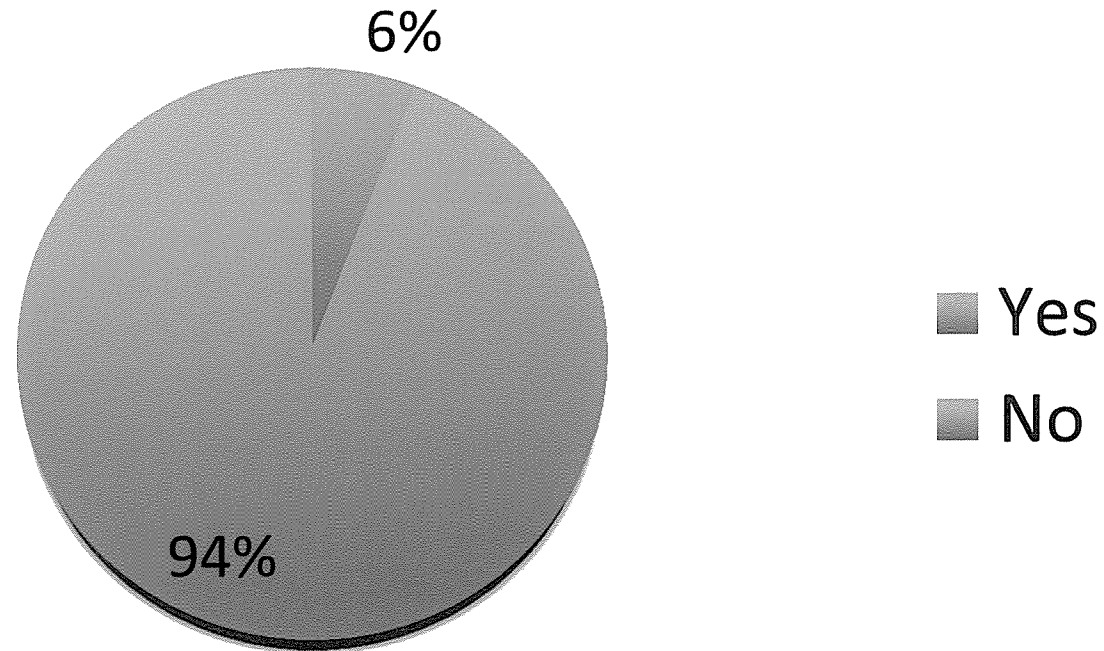
震災で不安に感じていること(※複数回答)



(2)社会 -Q2-

- ・震災対応で、政治はその役割を果たすことができたかを問うと、9割を超える学生が「No」と回答した。

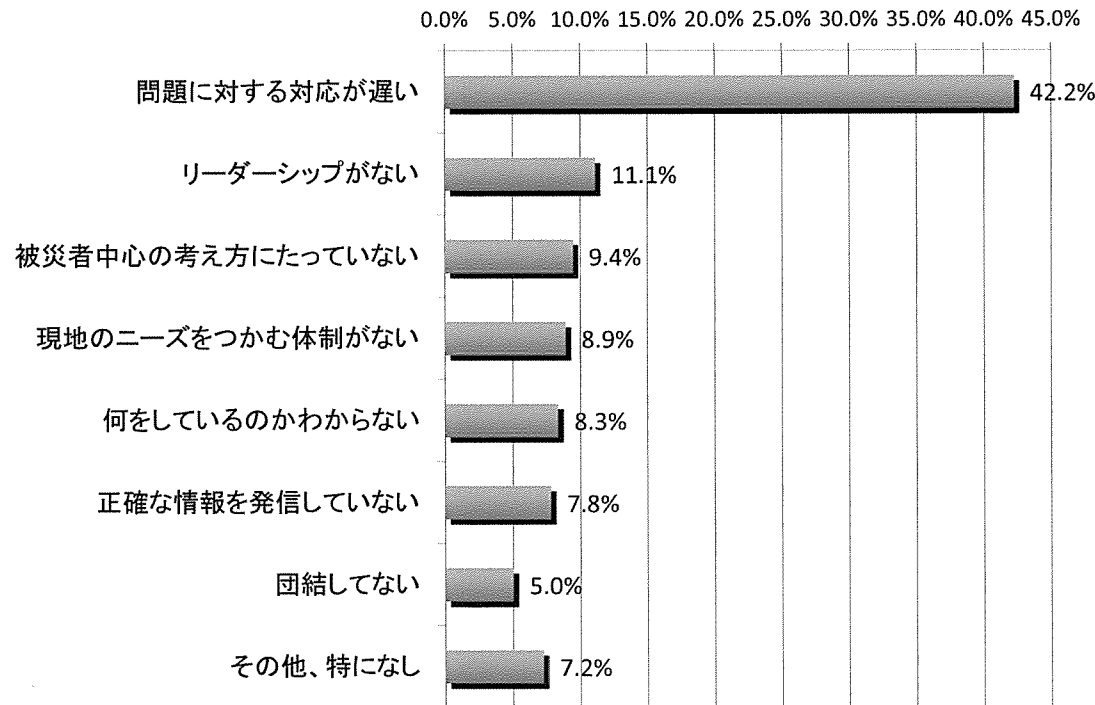
震災に対し、政治はその役割を果たすことができたか



(2)社会 -Q2-

- ・「役割を果たしていない」理由としては、「問題に対する対応の遅さ」が最多となった。

〈Noと回答した理由〉



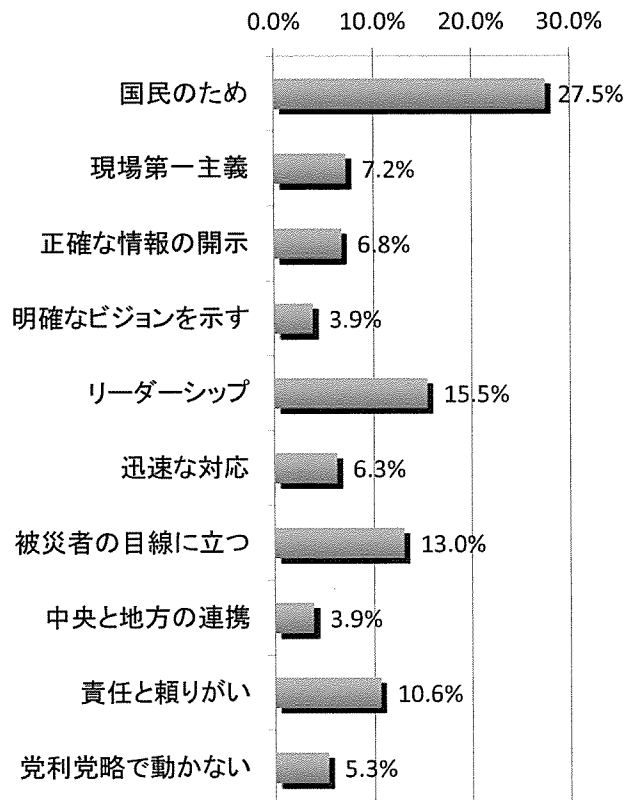
〈Yesと回答した理由〉

- ・とりあえず改善の方向に向かっている
- ・法案を通そうと政治家は頑張っていた。党利党略が絡み、あまりよく見えなかっただけ
- ・予測ができない地震や津波による被害だったので、対応が遅くなっても仕方がない。
- ・最低限はやっていると思うなど

(2)社会 —3.政治のあるべき姿とは—

・「政治のあるべき姿」を問うた質問では、「国民のため」との理由が最多。「リーダーシップ」が次に続いた。さらに、「被災地外学生」「被災地外出身」の学生が、一方と比較して「被災者の目線に立つべき」と答えた割合が多かった。

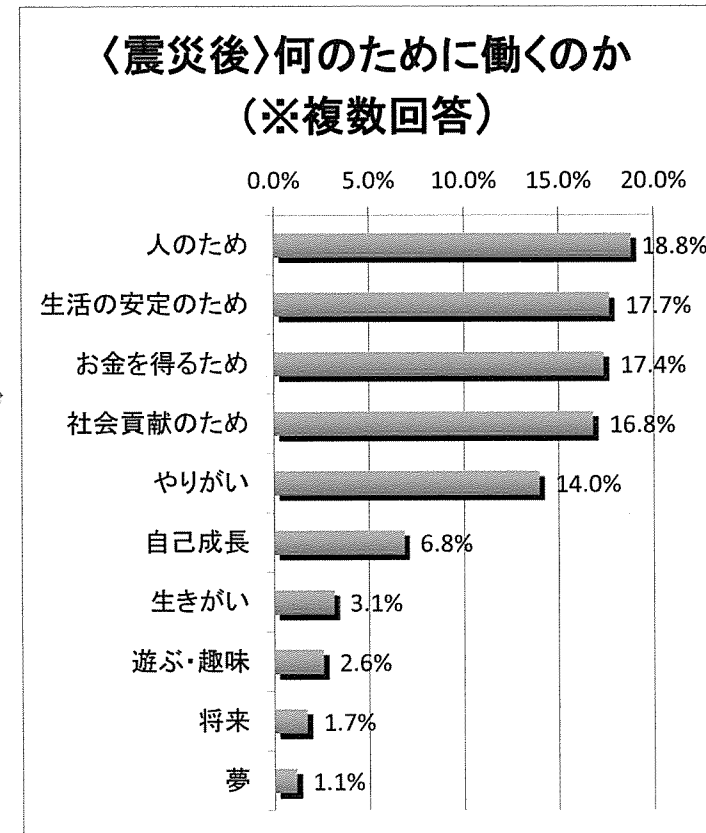
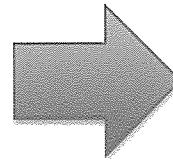
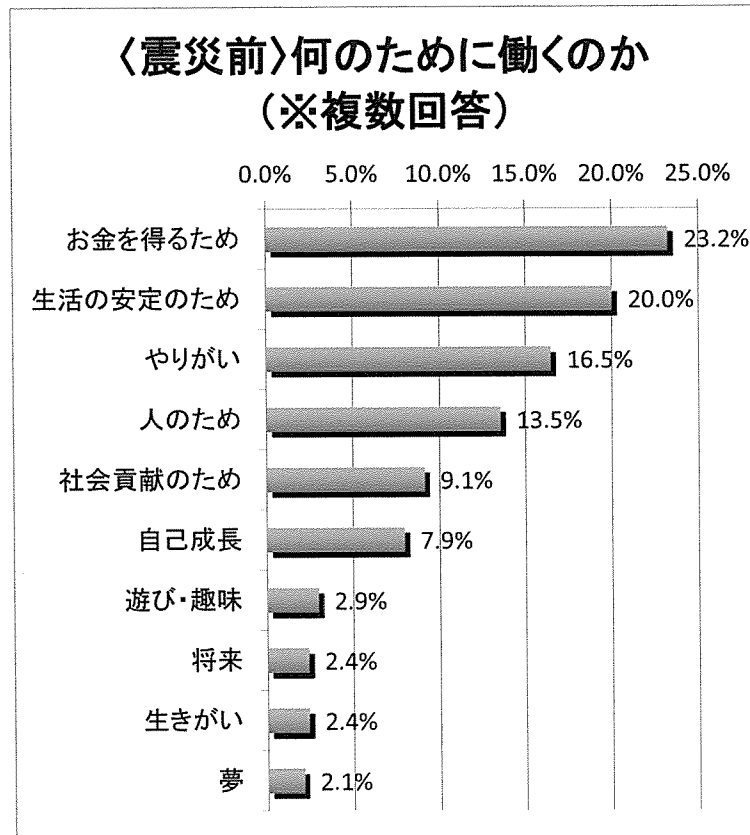
政治に求めること



項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
国民のためとの姿勢	27.5%	28.8%	26.3%	33.0%	23.3%	28.3%	26.4%	34.2%	23.7%
現場第一主義	7.2%	3.0%	14.5%	4.4%	9.5%	5.0%	10.3%	10.5%	5.3%
正確な情報の開示	6.8%	8.3%	3.9%	9.9%	4.3%	6.7%	6.9%	6.6%	6.9%
明確なビジョンを示す	3.9%	4.5%	2.6%	4.4%	3.4%	5.0%	2.3%	2.6%	4.6%
リーダーシップ	15.5%	15.2%	15.8%	17.6%	13.8%	13.3%	18.4%	11.8%	17.6%
迅速な対応	6.3%	6.8%	5.3%	4.4%	7.8%	6.7%	5.7%	2.6%	8.4%
被災者の目線に立つ	13.0%	10.6%	17.1%	12.1%	13.8%	13.3%	12.6%	7.9%	16.0%
中央と地方の連携	3.9%	4.5%	2.6%	3.3%	4.3%	3.3%	4.6%	3.9%	3.8%
責任と頼りがい	10.6%	12.9%	6.6%	6.6%	13.8%	13.3%	6.9%	11.8%	9.9%
党利党略で動かない	5.3%	5.3%	5.3%	4.4%	6.0%	5.0%	5.7%	7.9%	3.8%

(2)社会 —4.震災前後で変化した就職観—

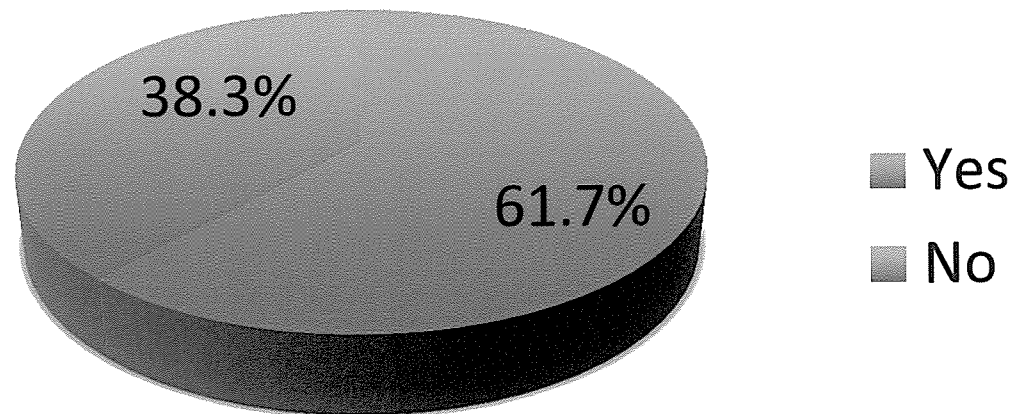
- 震災前後で変化した就職観では、「人のため」を主の理由に置く学生が、約5%増加。「社会貢献」の割合も増加した。



(3)個人 —1.現実の行動—

- 6割を超える学生が、「被災地のために行動を起こした」と回答した。

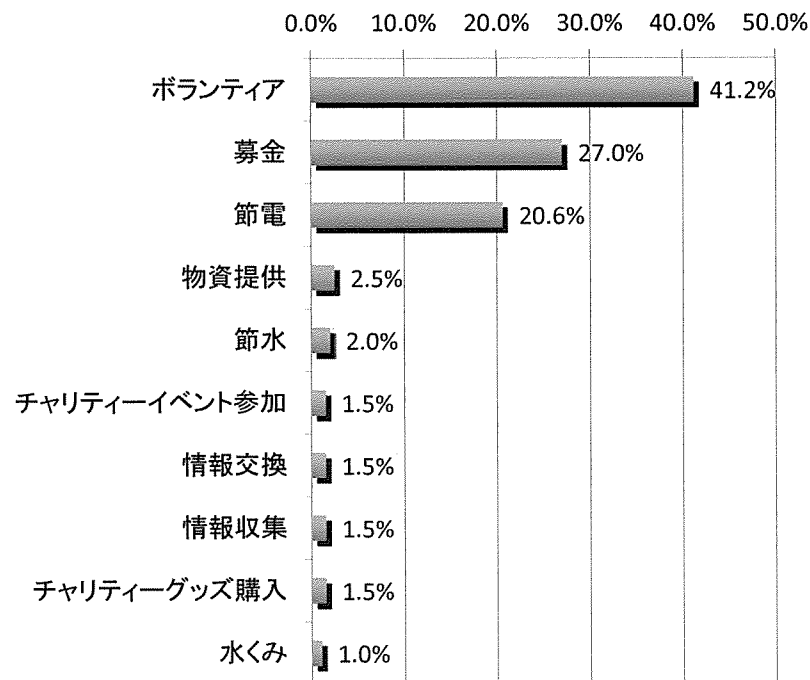
被災地のために、どんな小さなことでも行動
を起こしましたか



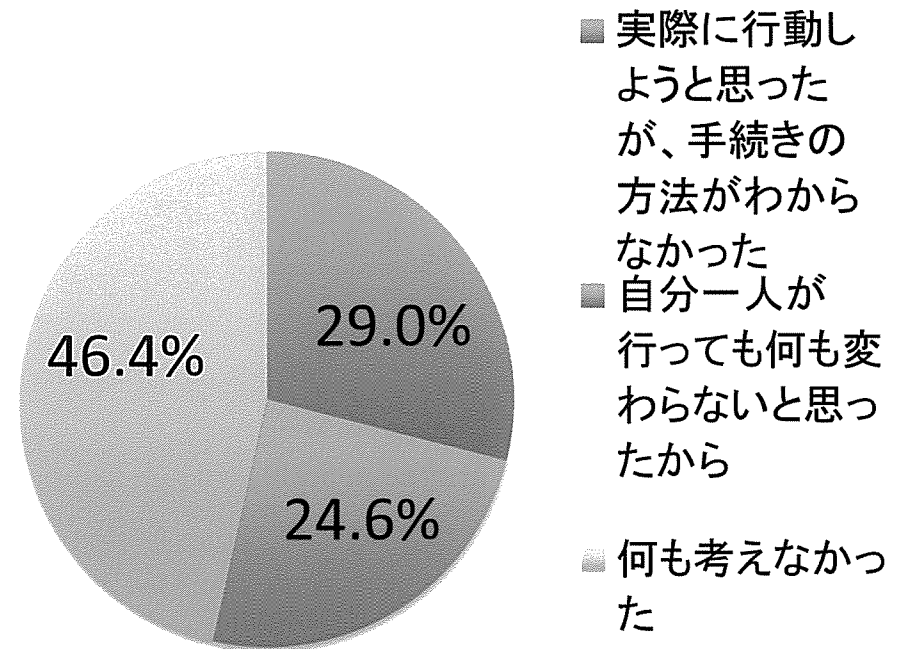
(3)個人 —2-1,2.行動の内容、理由—

- 行動した内容としては、「ボランティア」が最多。「募金」「節電」など、それぞれの生活のなかでの工夫も窺い知れる。
- 行動しなかった理由としては、「実際に行動しようとしたが、手続きなどの方法がわからずやらなかった」と回答した学生が約3割に。

〈Q1の回答がYesの場合〉どんな行動をしましたか



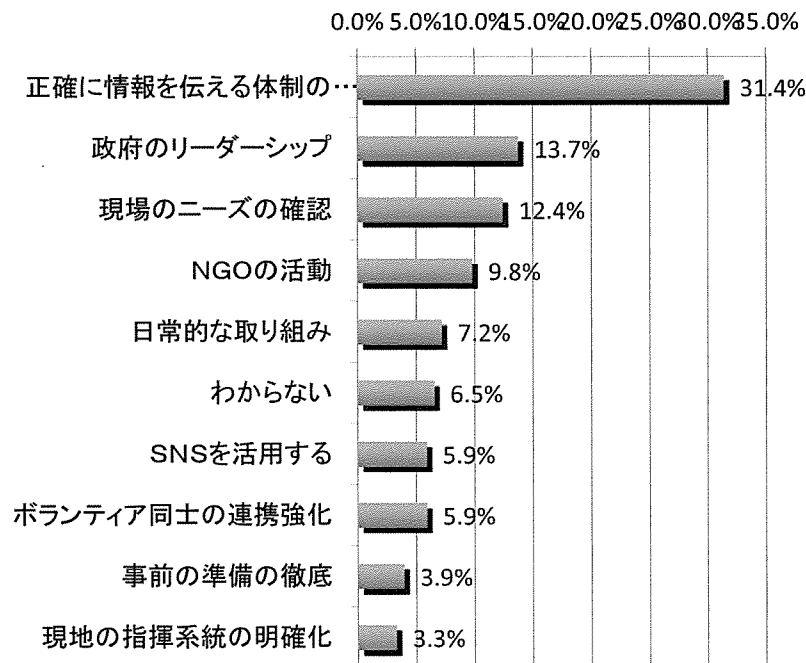
〈Q1の回答がNoの場合〉理由



(3)個人 -Q3-

・支援する側とされる側の情報のミスマッチの解消としては、「正確に情報を伝える体制の整備」が最多。政府のリーダーシップが挙げた回答が次いだ。

情報のミスマッチを解消するためには？

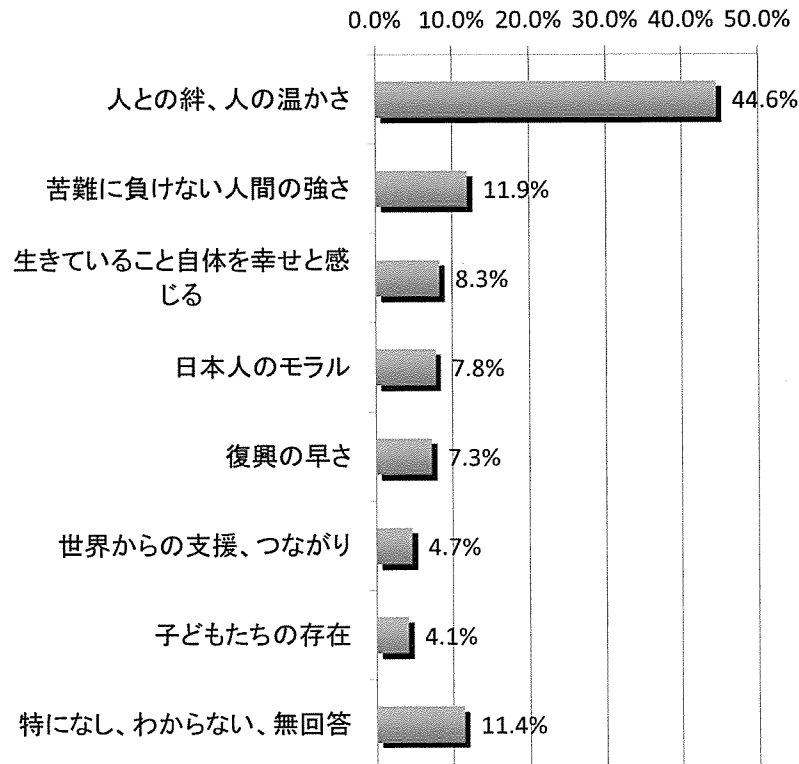


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
正確に情報を伝える体制の整備	31.4%	30.8%	32.7%	37.3%	25.6%	28.2%	35.3%	27.7%	26.0%
政府のリーダーシップ	13.7%	13.5%	14.3%	12.0%	15.4%	12.9%	14.7%	14.9%	14.6%
現場のニーズの確認	12.4%	13.5%	10.2%	12.0%	12.8%	14.1%	10.3%	10.6%	14.6%
NGOの活動	9.8%	9.6%	10.2%	9.3%	10.3%	11.8%	7.4%	10.6%	10.4%
日常的な取り組み	7.2%	7.7%	6.1%	8.0%	6.4%	7.1%	7.4%	6.4%	8.3%
わからない	6.5%	6.7%	6.1%	5.3%	7.7%	8.2%	4.4%	10.6%	5.2%
SNSを活用する	5.9%	2.9%	12.2%	2.7%	9.0%	4.7%	7.4%	2.1%	8.3%
ボランティア同士の連携強化	5.9%	6.7%	4.1%	4.0%	7.7%	8.2%	2.9%	6.4%	6.3%
事前の準備の徹底	3.9%	4.8%	2.0%	4.0%	3.8%	2.4%	5.9%	6.4%	3.1%
現地の指揮系統の明確化	3.3%	3.8%	2.0%	5.3%	1.3%	2.4%	4.4%	4.3%	3.1%

(4)未来 -Q1-

- 未曾有の震災の中にあっても見いだした希望として、「人との絆、つながり」が最多。「地震でパニックになったが、友人が水汲みや食糧の買い出しをしてくれた」など、つながりを象徴する声も多数、回答されていた。

震災のなかでも見いだした希望

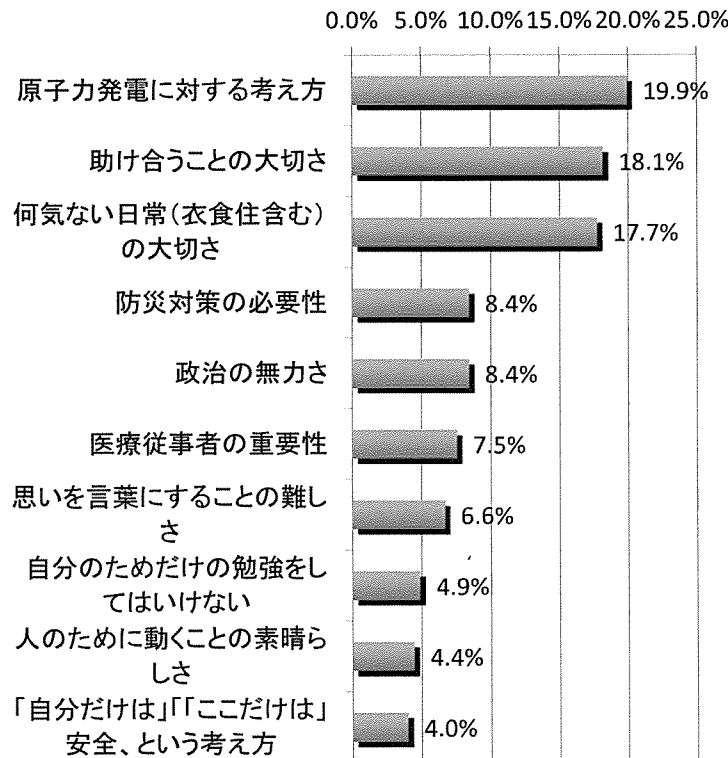


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
人との絆、人の温かさ	44.6%	48.6%	54.2%	51.9%	48.3%	39.7%	56.9%	44.7%	46.5%
苦難に負けない人間の強さ	11.9%	15.0%	11.9%	12.7%	14.9%	14.1%	9.2%	8.5%	12.9%
生きていること自体を幸せと感じる	8.3%	10.3%	5.1%	8.9%	8.0%	10.3%	6.2%	10.6%	13.9%
日本人のモラル	7.8%	7.5%	11.9%	12.7%	5.7%	11.5%	9.2%	10.6%	8.9%
復興の早さ	7.3%	10.3%	3.4%	3.8%	12.6%	12.8%	6.2%	12.8%	7.9%
世界からの支援、つながり	4.7%	3.7%	8.5%	3.8%	6.9%	9.0%	3.1%	6.4%	5.0%
子どもたちの存在	4.1%	4.7%	5.1%	6.3%	3.4%	2.6%	9.2%	6.4%	5.0%

(4)未来 -Q2-

- 震災前後で変化した価値観としては、「原子力発電に対する考え方」が最多。高学年が低学年と比較すると、「人のため」に勉強する、動くなどの変化が顕著であることがわかる。

震災前後で最も変化した価値観

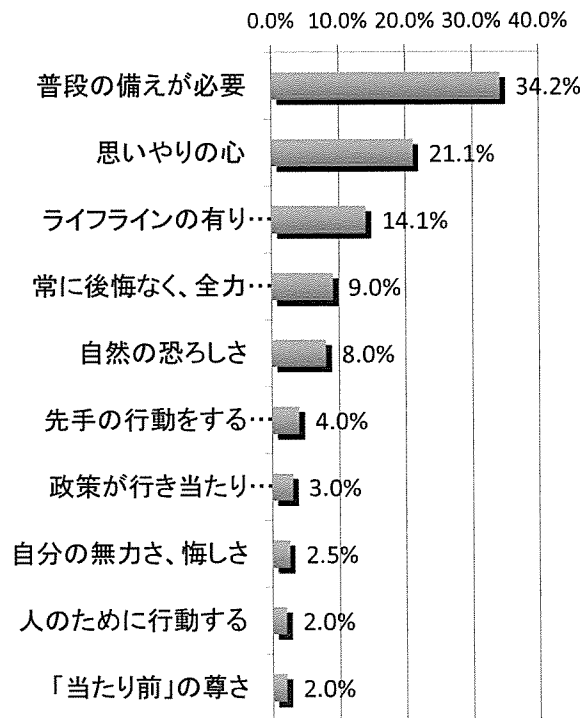


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
原子力発電に対する考え方	19.9%	21.8%	17.1%	23.1%	18.4%	24.2%	12.8%	19.0%	22.1%
助け合うことの大切さ	18.1%	18.4%	15.7%	17.6%	18.4%	15.6%	17.4%	12.7%	17.2%
何気ない日常(衣食住含む)の大切さ	17.7%	17.7%	15.7%	16.5%	14.6%	21.1%	15.1%	20.6%	13.1%
防災対策の必要性	8.4%	6.8%	11.4%	6.6%	4.9%	8.6%	7.0%	9.5%	10.7%
政治の無力さ	8.4%	8.2%	8.6%	8.8%	7.8%	8.6%	8.1%	11.1%	7.4%
医療従事者の重要性	7.5%	6.8%	10.0%	7.7%	9.7%	6.3%	10.5%	9.5%	9.0%
思いを言葉にすることの難しさ	6.6%	6.1%	8.6%	7.7%	7.8%	5.5%	9.3%	6.3%	4.1%
自分のためだけの勉強をしてはいけない	4.9%	4.8%	5.7%	5.5%	5.8%	3.1%	8.1%	7.9%	4.9%
人のために動くことの素晴らしさ	4.4%	4.8%	4.3%	2.2%	7.8%	3.1%	7.0%	1.6%	7.4%
「自分だけは」「ここだけは」安全、という考え方	4.0%	4.8%	2.9%	4.4%	4.9%	3.9%	4.7%	1.6%	4.1%

(4)未来 -Q3-

- 震災から学んだ教訓としては、「普段の備えが必要」が最多。「1日1日を後悔なく生きる」をあげた学生も多かった。

震災から学んだ教訓

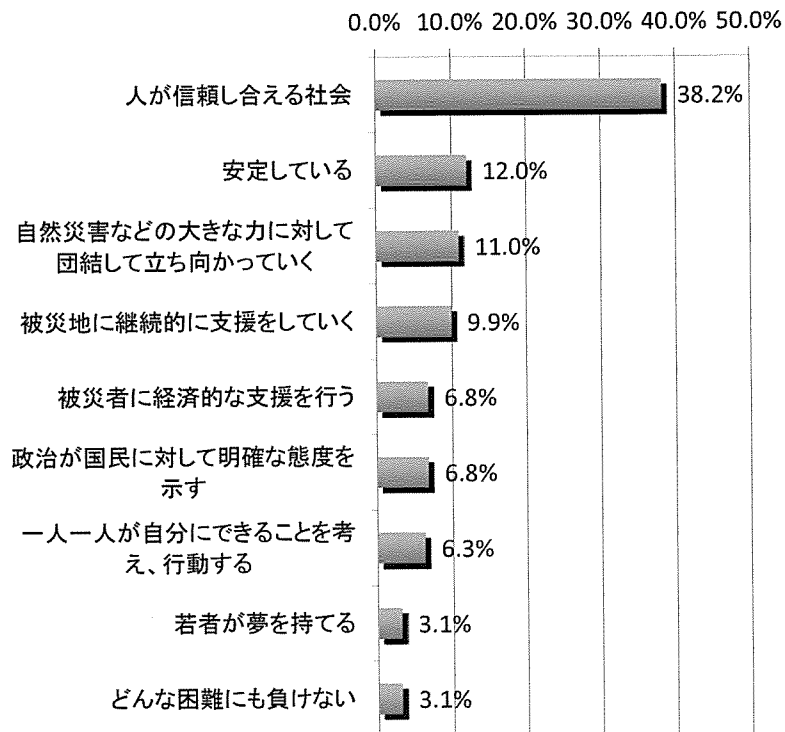


項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
普段の備えが必要	34.2%	37.0%	28.6%	31.1%	37.2%	33.3%	34.8%	37.6%	31.4%
思いやりの心	21.1%	22.2%	19.0%	22.6%	19.1%	20.7%	21.3%	20.4%	21.9%
ライフラインの有り難さ	14.1%	16.3%	9.5%	14.2%	13.8%	18.0%	9.0%	11.8%	16.2%
常に後悔なく、全力で生きる	9.0%	5.9%	15.9%	8.5%	10.6%	6.3%	10.1%	8.6%	8.6%
自然の恐ろしさ	8.0%	5.9%	12.7%	9.4%	6.4%	8.1%	7.9%	6.5%	9.5%
先手の行動をすることの大切さ	4.0%	4.4%	3.2%	2.8%	5.3%	3.6%	4.5%	3.2%	4.8%
政策が行き当たりばったり	3.0%	3.7%	1.6%	4.7%	1.1%	2.7%	4.5%	4.3%	1.9%
自分の無力さ、悔しさ	2.5%	0.7%	6.3%	1.9%	3.2%	1.8%	3.4%	2.2%	2.9%
人のために行動する	2.0%	1.5%	1.6%	1.9%	2.1%	2.7%	3.4%	2.2%	1.9%
「当たり前」の尊さ	2.0%	2.2%	1.6%	2.8%	1.1%	2.7%	1.1%	3.2%	1.0%

(4)未来 -Q4-

- 今後築いていきたい社会としては、「人が信頼し合える」が最多。被災地学生、被災地出身の学生が、一方と比較すると「継続的な支援」「経済的支援」をあげていることがわかる。

今後どのような社会を築きたいか



項目名	全体	被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	低学年	高学年	文系	理系
人が信頼し合える社会	38.2%	36.4%	42.4%	29.4%	48.3%	33.9%	45.2%	43.6%	34.5%
安定している	12.0%	10.6%	15.3%	12.7%	11.2%	11.9%	12.3%	10.3%	13.3%
自然災害などの大きな力に対して団結して立ち向かっていく	11.0%	11.4%	10.2%	8.8%	13.5%	11.9%	9.6%	6.4%	14.2%
被災地に継続的に支援をしていく	9.9%	12.1%	5.1%	12.7%	6.7%	12.7%	5.5%	9.0%	10.6%
被災者に経済的な支援を行う	6.8%	9.1%	1.7%	9.8%	3.4%	7.6%	5.5%	5.1%	8.0%
政治が国民に対して明確な態度を示す	6.8%	7.6%	5.1%	7.8%	5.6%	8.5%	4.1%	7.7%	6.2%
一人一人が自分にできることを考え、行動する	6.3%	6.1%	6.8%	6.9%	5.6%	6.8%	5.5%	7.7%	5.3%
若者が夢を持てる	3.1%	3.0%	3.4%	4.9%	1.1%	2.5%	4.1%	5.1%	1.8%
どんな困難にも負けない	3.1%	0.8%	8.5%	2.9%	3.4%	2.5%	4.1%	2.6%	3.5%